

2020 年度 保育士自己評価公表

社会福祉法人たまご会 あゆみ保育園

正規保育士 8 名（園長 1 名・主任 1 名）

非正規職員 6 名・給食職員 3 名・事務 1 名・延長保育 1 名・高齢者等 1 名

* 保育の計画性について

- ・園の保育理念・方針を理解・共感し保育の中に取り入れている
- ・子どもの興味・関心・発達を意識し活動を展開している
- ・コロナ禍において保育行事等、季節感や環境を整える事が難しいところが見られた
- ・職員間で評価・反省・検討等、会議で行っているが、感じ方や満足度には個人差がある
それぞれが、達成感を持ったり、問題意識・課題を実感し、それを他職員と共有できる環境を作
っていききたい

* 保育のあり方・子どもへの対応について

1, 健康と安全・生活面への配慮

- ・朝の視診・子どもの健康状態等、個々に気をつけてはいるが、共有・伝達面がスムーズにいつていない点がある
- ・体調不良・ケガ等が起こった場合は、適切に処置し主任や園長にも伝達するようにしているが、小さなケガ等は、伝わっていないこともあるので、全員が共有できる環境を作っていく事が課題
- ・個々に気をつけてはいるが、忙しさもあり生活環境を整える・整理整頓が難しいところがある。
- ・コロナ禍、その日使った玩具を早出保育士や非正規職員で協力しながら消毒等、行うことができている

2, 子どもへの関り

- ・スキンシップや、子どもの要求に応じた対応など、意識して気をつけている
- ・子どもの要求と保育士の思い・願いにずれが生じた場合、子どもの自信を失わないように気をつけるようにしている。自分の保育を意識して振りかえるようにしている
- ・支援のいる子への対応等、全員が共有できるように会議等で伝達して行く事ができた
- ・密を避ける点からも、異年齢での活動が前半は難しかったが、後半は意識して行うことができた

* 保護者への対応について

- ・コロナ禍の為、保護者の園内滞在時間を短くしたり、室内へは入らず入口対応にしていたこともあり、若い保育士にとっては、話す経験が少なくなった。その為、ケガや子ども同士のトラブルについての対応において、気になる点が出てきたので、会議等でどのように伝えるかを話しながら、送迎時に少しでも話す時間を作っていた。また、保護者の気持ちを受けとめるように、先輩保育士の力も借りながら、関係作りをしていくようにした。

*守秘義務・保育士としての義務等について

- ・必要なことは、職員で共有している
- ・カメラ・パソコン等の管理を徹底できていないので、事務室管理・個々に管理するものを定着させていく（個人情報も事務室での管理にしていく）

*対応上のマナー・保育士としての良識等について

- ・保護者との対応は、節度を持って対応するよう意識している
- ・職員同士・来客に対して・保護者に対しての対応をいつも意識して明るく意識している
- ・相手の意見を聞く・受け止める・自分の意見を言う等、できるだけ気をつけている
- ・締め切り・約束等を守ることに於いて、少し難しさがある
早め早めの対策を作っていく（回覧で締め切りを意識するなど）

*専門性に関する意欲・態度について

- ・研修・学習会になかなか意欲的には参加しにくい現状があるが、コロナ禍でリモート研修が可能になり、園・家庭での参加が可能になったことで参加しやすくなった
- ・子どもの発達・アレルギー・安全などに対して意識はしているが、もっと積極的な学習参加が必要と感じている。特に乳児の睡眠・食事の事故などの学習が必要

*2020年度自己評価をして

- ・それぞれ、子どもの発達段階を意識して保育していく事を大切にしている。園の理念・保育方針も意識しているが、個々に認識の差はあると思うので、共通認識を深めていける学習会なども計画していきたい。また、それぞれの課題を一つずつ改善していけるよう、丁寧に話を聞いていく機会を作るようにしていきたい
- ・一人の問題・課題とせず、保育士集団を高めていけるように、全体に色々な事を投げかけながら、話し合っていく事をしていく（保育・ヒヤリハット・保護者対応等）
- ・2020年度は、コロナ禍という事もあり保護者との関係・話し合いができにくかった事を、反省しつつ、どのようなことならできるかを一緒に考えていく役員会・保護者会を大切にしていきたい。